

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893900015		
法人名	社会福祉法人 勝心会		
事業所名	グループホーム 清音 [なでしこユニット]		
所在地	兵庫県赤穂郡上郡町與井42-1		
自己評価作成日	平成23年3月17日	評価結果市町村受理日	平成23年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.gh-kiyone.com/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「和」の温もりが感じられる構造となっており、防災設計がなされ消防設備(スプリンクラー)も充実している。また、消防署と整形外科病院が隣接しており、緊急時の対応も迅速に行える場所に建設されている。生活内では、通常の事業所内サービス以外に、音楽療法士による週2回の回想セラピー、隣接されている整形外科病院からの往診(整形外科、皮膚科)、外傷後処置等のための看護師の訪問、理学療法士による訪問リハビリ、協力歯科医院からの週1回の往診が受けられる。その他、個別での対応により月に1～2回程度の外食の機会を提供している。また、趣味の継続支援として、塗り絵作品展示や毛筆による日めくりカレンダー作成の支援を行っている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-) です。)

自己 者第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に清音独自の「個を大切にしよう」という項目を加え、週1回の唱和を行い、各ユニット内への掲示もしており実践できるよう日々努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間を通して「とんど」や「秋祭り」の時程度でしか地域との関わりができていない。散歩に出かけても挨拶を交わす程度である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に対して、知識や経験を生かした貢献活動はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告や話し合いは十分にできており、サービスに生かすための努力をしている段階である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、課題の解決に向けて共に取り組めるような流れを作れるよう模索中である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアへの取り組み姿勢は見られるが、身体拘束となる具体的な項目やその弊害を理解でいていいるのは一部の職員であり、十分には理解できていない。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議内での勉強機会を提供してはいるが、実践レベルにまでは至っていない。		

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度等を理解し活用できるようにするためにも勉強機会を検討中である。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は予め説明に時間がかかることを了承いただいた上で口頭で丁寧に説明を行っている。また、改訂時は修正内容を明確にした文書を作成して再度同意を得るように心がけている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一部の利用者と家族とは良好な関係が築けており実現できているように感じるが、全ての方が率直な思いを言えているとは思えない。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を言える場面が少ないために反映されるレベルまでは到達していない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間調整や年休取得支援および日勤帯の手厚いスタッフ配置に心がけているが、勤務体制や勤務時間（夜勤）が厳しいとの認識が多数を占めておりやりがいや向上心にはつながっていないようである。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前年度と比較しても外部研修の機会を多く持ち、法人内研修への積極的な参加も呼びかけているも一部の職員の参加となっている。また、個々での資格取得に対する意識は高い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交換研修を行ったが、一部の職員のための参加であった。また、町内の事業者連絡会への参加を積極的に行い、横関係作りを行った。だが、事業所内の職員同士のネットワークが弱いのが実情である。		

自己 者第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の思いに気付けるよう、また、いつでも思いを聞くことができるよう普段からの関係作りを大切にしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談により家族からの要望の聞き取りを行っている。また、家族の今までの体験に耳を傾け思いを理解できるよう、いつでも話を聞けるよう心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所にあたっての話の中で本人や家族がまず何を望んでいるのかの見極めを行い、感じ取ることによりスタッフへの周知を図っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、されるという一方的な関係にならないよう、共に過ごす時間を多く持つことで喜怒哀楽を共有し、支え合う関係作りを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の情報交換や受診への協力を行い、家族との良い関係作りへの実践を行っている。また、年に1回家族交流会を行っている。	
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会支援や外出や外泊の継続ができており、それにより馴染みの場所へ行くこともできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に家事を行ったり、外食に行く機会を設けている。また、利用者同士の訪室によりテレビを見て過ごすという場面も見られる。	

自己	者第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的には死亡もしくは同法人特別養護老人ホームへの転居による退所となっており、転居者についての情報収集は随時行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間の情報交換を徹底している。認知症だからとあきらめるのではなく、利用者の声をしっかりと受け止めるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に詳細な生活歴を聞き取り趣味等の把握に努めて職員への周知を行っている。入所後は本人や家族との馴染みの関係を作り、日々の暮らしの中から改めてこれまでの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	部分的にではなく1日の生活の流れの中で全体的に目配りをしながら状況の把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	明確なチームとしての確立はできていないが、日々の利用者との話の中での希望の聞き取りや現状把握を行い、家族との随時の意見交換や要望の聞き取りを行い、突発的に要望を聞くのではなく事前に要望の聞き取りを行っている。また、実際の作成にあたっては計画作成担当者が中心となり、ケース担当およびユニットリーダーを協議の上作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	専用のシステムでの入力となっており、タイムリーに入力でき、各PCからの閲覧も可能なため情報の共有が行えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の個別にニーズに対応するための外出や受診を行っている。しかし、グループホーム利用該当者に対しての偏見から介護技術が乏しく重度化になり要介護状態となった利用者の受入に時間がかかってしまう。		

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	受診、外出や買物、美容院等の活用は行っているが、地域内の社会資源をフルに活用できているわけではない。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの医師からの医療を継続できるように通院を行っている。また、状態に変化があれば電話相談等により迅速な対応を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との関わりといっても隣接している病院内の看護師との接触程度であり、利用者の事を常日頃より観察できている相手ではないので主治医を通り越して相談を行うような状態ではない。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず職員が付き添い、情報提供シート等を活用して様子を伝えている。また、主治医や看護師に対してもいつでも連絡を受けられるよう、こちらの連絡先を事前に伝えており、常に退院後の再入所を前提に入院中の様子伺いや医療関係者や家族からの情報収集を行っている。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化時の同法人からのフォロー体制についての説明を行っている。また、法人内の幹部ミーティングでの随時の情報提供および入所計画委員会への出席により利用者の現状を報告している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備するとともに、館内のAEDの設置を行っている。また、法人内の研修会によるAED講習や個別での消防署へのAED講習受講で緊急時に備えた実践力を身に付けるよう取り組んでいる。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署への隣接により応援体制は整っている。また、防災マニュアルおよび消防計画を作成しており防火管理者の配置により年に2回の消防避難訓練や消火訓練、水害時の避難訓練を実施している。		

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーという言葉の意味を大きな意味でしか理解できていない現状があり、実践できているのは一部の職員に限られてしまっている。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中から要望等を聞き出し、個別外出を行ったり、ホーム内で実施したりしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムや本人がしたい事、したくない事を職員が把握して、利用者に合わせた支援を行っている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性や希望を大事にしながら個別の支援を行うようにしている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	健康管理を視野に入れながら、美味しい、楽しいと感じられるように季節感を意識しながら献立を作成している。また、調理参加できる利用者には積極的に参加を促している。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量を個別に記録しており、それをもとに必要量が摂取できるように関わっている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアとして、口腔内洗浄と義歯洗浄を行い、夜間は漬け置きをしている。また、定期的に入歯洗浄剤での洗浄を実施している。		

自己 者第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おしめの使用はほとんどなく、一人ひとりの排泄間隔やパターンを職員間で把握するように努めている。また、状況に変化があればユニット内会議にて討議を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食事量を把握するとともに、食物繊維を多く含む食事内容になるよう心がけている。また、オリゴ糖の使用を積極的に行っている。	
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴したい方には毎日入れるよう配慮するとともに、体調が良ければ利用者からの「入りたい」との要望に応えられるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴や散歩により安眠効果が得られるように配慮している。また、個人の生活ペースを大切にして数日間の出来事についての把握を行っている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調や状態により薬の変更が多く、全ての職員が副作用等について理解できているわけではないが、服薬支援については随時話し合いを行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員間での情報を共有しながらそれぞれの利用者のしたい事、できる事等の支援は行っているが、利用者の重度化により個別支援が困難にはなっている。ただ、余暇を生かしたレクリエーションの提供は不十分である。	
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り希望に沿えるようように支援はしているが、同じ利用者に偏りつつあるのが現状である。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者は少額の現金を所有しており、日用品やお菓子、化粧品の購入を職員に依頼している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夜間については電話の要望があってもお断りすることもあるが、それ以外の場面では希望に沿えるように対応している。また、自分で手紙を出すことができない利用者についても、月1回のユニットだよりにより家族に状況をお知らせしている。	
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音響設備により利用者へのBGMを随時提供するとともに季節の花等を飾っているが、トイレ内の暖房が設備されておらず夏季や冬季の使用が大変である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内の和室は高さがあるとともに中途半端な広さによりくつろげる仕様にはなっていない。ソファを設置しており、そこでくつろげるようにはなっているが、利用者同士でくつろげるようなプラベートスペースは確保されていない。	
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが家からの馴染みの物や家族の写真等を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	初期構造的に居室のドアが開けにくく、力の弱い方の居室については取っ手の後付けにより使用方法の工夫を行っている。	